

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2373900469		
法人名	有限会社 愛敬		
事業所名	グループホームみどり 1		
所在地	愛知県稲沢市北島5丁目55番地		
自己評価作成日	平成30年 9月 4日	評価結果市町村受理日	平成30年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2373900469-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2373900469-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年 9月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入浴日を2日に1回に増やし、全介助の利用者様にも浴槽に入り温まれるリフトを導入した。可能な限り毎日外出をしていただけるようスタッフが支援し、遠方の場所(動物園や美術館、ナガシマの花火など)にも毎月のようにでかけている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設15年を経たホームで、事務長・管理者(夫妻)が二人三脚で分担・協力して運営に当たっている。利用者・家族の意見・要望への速やかな対応ができており、家族アンケートからも、この体制が今後も続いていくことを願う声が聞かれた。法人代表の理解度も高く、浴室の改装や電動ベッドの導入等が実現した。利用者の声を職員が代弁した「鰻が食べたいネ」の意向に、代表から名産地の鰻の差し入れがあり好評を博した。  
職員の提案により実現した、認知症の進行を遅らせる効果が期待できる「大人の教室」を継続して実施しており、朝食後のひと時、利用者全員がテキストを用いた頭の体操を行っている。外出支援は眼を見張るものがあり、競馬場・競輪場への引率をはじめ、大阪の身内を訪ねる支援も続いている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営介護方針・理念を毎朝の申し送り時に職員が読み上げて共有・実践につなげている。	毎朝の申し送り時に、法人の運営方針とホーム理念の唱和を行っている。職員ヒアリングで周知度合いを確認したところ、即座に回答があり、高齢者介護に向ける意識の徹底振りがうかがえた。	時代に合わせた理念・目標を探ってみることも一考か。若いメンバーによる新たな考え方も採り入れてみることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員と利用者様と一緒に回覧板を届けに行ったり、公園の清掃を地域の方と一緒にやっている。	田園に囲まれた日中でも人通りが少ない地にあり、地域との交流には制約がある。町内会に加入し、地域行事には出来る限り利用者と共に参加して交流を図っている。中学生の福祉体験の要請には快く応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の職場体験を受け入れた際、支援の方法を伝えて、認知症の理解を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様も参加していただき活動報告や話し合いを行って意見をいただきサービス向上に活かしている。	市、地域包括支援センター、地区代表、知見者(民生委員)、利用者・家族等を招いて年6回開催している。参加者からの意見・要望は少ないが、質疑は多く寄せられており、真摯に向き合って討議している。	会議参加者の記載と議事録を整理し、発言要旨を記録して、今後の運営に反映させることを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センター担当者、市役所の担当者とこまめに連絡をとっている。	運営推進会議には毎回、市と地域包括支援センター職員の出席があり、随時相談を持ちかけている。生活保護受給者の受入れ要請には、空室が出れば連絡して応える体制にあり、相互の協力関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関についてはスタッフの目が行き届かないこともあり、事務所不在時はやむなく施錠しているが、身体拘束については、まったく行っていない。	「何が拘束に当たるか」を念頭に、常に意識を充実させている。落ち着きがなく、絶えず動き回る利用者を抱えて途方に暮れた時期もあったが、常に寄り添って見守る支援を続けた結果、落ち着きを取り戻し、家族からも感謝された事例がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員を外部研修に参加させ学ぶ機会を設けミーティングで発表して周知徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等を通じて学習する機会を持っている。成年後見制度を利用している利用者様が1名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に十分な説明を行っている。施設見学も行い、ご理解いただいている。改定の際は事前に家族会・手紙を通じて説明を行い、不安・疑問点については個別に説明を行い、ご理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会を通じてご家族様から意見を聞いている。面会時にも要望をいただいております、反映させている。	運営推進会議や家族会、面会訪問時を捉えて発言を求めている。利用料金の受取りはホームでの現金領収を原則としており、来訪時には利用者の様子を確認してもらい、意見・要望の聴き取りに繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを定期的に行い、職員の意見を聞いている。それ以外でも、随時コミュニケーションを取り、意見を聞けるようにしている。	機会ある毎に職員同士の意見交換が行われている。職員からの提案・意見の多くは運営に結びついており、浴室の改造、外出支援、勤務シフトの見直し、困難事例の対応策等が実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数、資格の取得などで給与が増えるシステムになっており、各自向上心を持って働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修ともに定期的に受けている。受講者は社内発表があり、全員が周知できるようにしている。リーダー職は自分で参加したい研修を選んで参加した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームと交流を行う計画はあったが、タイミングが合わず行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されてからしばらくの間は、ご本人様と積極的にコミュニケーションを図り希望や不安なことを聞き取り「私の気持ちシート」をつくって情報共有を行い、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所直前、入所後すぐに面談を3回行い、1週間後モニタリングし、要望や不安等を聞き出して関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接等を通してご本人様やご家族様からの要望を聞き出して、支援をどうするか決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや食器拭き・掃除・洗濯ものたたみ等家事を中心に役割を持っていただき、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回一緒に外出できる遠足の機会を設け、時間を過ごしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人との面会やなじみの喫茶店に出掛ける等、これまでの関係が途切れないよう支援している。	競輪・競馬マニア、絵画愛好家、コーヒー通等、それぞれの意向の継続を実現する支援が続いている。今年中に中京競馬場・一宮競輪場へ引率する計画と、恒例になった大阪の姉への訪問を果たす計画を練っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の間に職員が入り交流が図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談や支援は出来るよう努めている。相談の電話もいただく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様と話し合っって希望や意向を把握し、外出や買い物に出掛けている。困難な方はご家族様から意向をお聞きしケアを行っている。	観察力の優れた職員が多く、会話やしぐさから意向を読み取り、職員間で情報交換して早めの対応を行っている。動物園行きを望んだ利用者には、暑い時間帯を避けて夜間動物園(ナイトズー)に引率した事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント票や利用者基本情報シート等を通して全職員がご本人様のこれまでの生活歴などを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録を毎日丁寧に記録しケアプランチェック実施チェック等を通して現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様だけでなく、往診時に医師や看護師、PTや薬剤師等から意見を聞いて取り入れ介護計画書を作成している。	介護計画の実現状況を日々の介護記録のチェック欄に記入し、グラフ化している。「見える化」することで全職員が計画内容を把握し、一緒に作る介護計画になっている。利用者の意向や希望も取り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことでも記録に記載するよう心がけている。申し送りを徹底して情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	大阪に住む姉に会いに同行する等ニーズに応じて対応して柔軟なケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の寺やスーパー等外出支援を行い、身体機能の維持や心身のリフレッシュを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週かかりつけ医の往診を受けている。皮膚科・眼科・歯科の往診も定期的に受けている。	全員が協力医に主治医を変更し、2週に1度の往診を受けている。他に皮膚科・眼科・精神科の往診を月1回、歯科の往診を毎週受けている。受診希望の病院があれば、職員同行で受診する支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護ステーションの看護師が来所し、特変のあった利用者様をみて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は御見舞のみ。情報はご家族から聞き取るようにしている。退院後は看護サマリーを通して利用者様の情報が把握できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの段階の利用者様については、ご家族様に丁寧な説明を行い、納得して頂いている。	今迄に数名の看取りの経験があり、今年も本人・家族の希望で1名の看取りを行った。職員は看取りの研修を受けて覚悟はできている様子だが、不安を訴える者もいる。緊急時は管理者・事務長が駆け付ける体制で臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを用意し、全職員が適切な初期対応がとれるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に職員・利用者様合同で避難訓練を行い、災害時の対応を身につけている。	年2回(内1回は消防署員立会い)、避難・消火訓練を行っている。消防署員より注意点・改善点を聞き、今後の災害対策に役立てている。水と非常食が2日分備蓄しており、賞味期限を見ておやつとして消費している。	災害時の地域住民の協力は不可欠のため、防災訓練時に地域住民の参加要請を続けていかれることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際は、ノックを必ずして本人様の許可をいただいてから入室する。ことば掛けも馴れ馴れしくならないよう注意している。	利用者一人ひとりの特徴をよく理解し、プライバシー・羞恥心に気を配りながら二人っきり時に声掛けするよう心掛けている。人生の先輩である事を忘れないように、教えてもらう気持ちで接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どこに外出したいかや、何か食べたいかをお聞きして外出先を本人様の希望にそってきめられるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	絵を描かれる利用者様には出来るだけ自由にいつでも書いていただいている。競馬の好きな方には、毎日自由に予想を立てられるよう過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をされる方には、声掛けして行っただけにしている。洋服の購入も外出し一緒に選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを決める際には利用者様に希望をお聞きして反映している。食事の後片付けを一緒に行っている。	食べたい物を聞き出し、季節の食材を取り入れた献立を作って専門職員が調理している。「鰻が食べたい」の声に社長の差し入れもあった。食材刻み、配膳、食器洗い、お盆拭きを分担する利用者の姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重が増加傾向にある方には提供量を少なめにさせていただいている。水分摂取量を増やすため夜間も介助して飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自立している利用者様は自己にて、介助が必要な方は歯ブラシ・口腔ガーゼ等を使って口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から統計を取り、誘導表を作成し失禁前のトイレでの排泄が行えるよう努めている。	食前・食後・おやつの前等、動く前には声掛けし、区切りの良い時に誘導する支援を行っている。排泄チェック表で管理し、早めの誘導により失禁防止に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事形態を工夫し、毎日体操を行って便秘を予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが希望者には臨機応変に対応して入浴して頂いている。同性介助希望の方には、希望通り対応している。入浴時間帯が職員の都合に依るところが大きい。	昨年2階浴室を改装し、浴室リフトを設置して全員が浴槽につかれるようになった。4日に1回から2日に1回の入浴支援が可能になり、清潔感が向上した。ゆず湯等の季節感を楽しむ支援もできている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れず、ずっと独特のメロディを発語続けている方には薬を服用して頂き夜間はしっかり休んでいただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ミーティングに薬剤師にも毎回参加して頂き、薬の効能、副作用の説明を受けている。薬の変更時にもその都度説明をしていただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵画や競馬等以前からの趣味を継続して行っている。トランプやジェンガも利用者様同士で楽しんでいる。馴染みの喫茶店にもでかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出の際外出をするかどうか希望をうかがっている。ナガシマスパーランドの花火大共演等夜の外出支援やリトルワールドなど遠方にも外出支援をしている。	外出支援には全力を上げて取り組み、毎日の散歩、週1回の喫茶店外出、週3回の買物時の引率等、日常的に外出する機会を作っている。職員の企画による行楽地への遠出も定期的に行っており、希望が叶えられるよう「利用者第一」の取り組みである。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に自分の服や菓子等を買われる時に使われている。預り金から職員が手渡しする。職員がお釣り等も管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	みどり便りを月に1回書いている。ご家族様への思いが届くよう支援している。携帯電話を持たれている方もいるが外部との連絡はしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに季節の飾りつけを行い、七夕やクリスマス等の気分を感じて居心地良く過ごせる様努めている。	玄関から続く廊下の壁には、絵心のある利用者の季節感あふれる水彩画が掲示しており、移り行く季節が感じられた。田園に囲まれた静かな環境下であり、稲田越しに新幹線が眺望できる風景は季節感と安らぎが実感できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご夫婦で別々の階で入所されている方は一緒に過ごせる時間をつくって夫婦の時間を大切にしている。フロアの席を気の合う方同士にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族様の写真を飾ったり以前から使われていた持ち物を置いて居心地がよいように努めている。	壁面に毎年の誕生会の写真が飾られた部屋、お気に入りの筆筒が置かれた部屋、安全移動用リフトが置かれた部屋、転倒防止のためのセンサーが設置された部屋等、居室には個々に特徴が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカーを使われている利用者様の居室には、目印となるテープを床に貼り分かりやすく安全にベッドに行けるよう配慮している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2373900469		
法人名	有限会社 愛敬		
事業所名	グループホームみどり 2		
所在地	愛知県稲沢市北島5丁目55番地		
自己評価作成日	平成30年 8月31日	評価結果市町村受理日	平成30年11月16日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

外出支援に力を入れている。今年は認知症ケアとして企画の段階から利用者様に関わって頂き、企画書の作成を一緒に行っている。
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2373900469-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2373900469-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年 9月25日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送りの際に事業所理念を読み上げ共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板の届けや清掃活動を通して交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベントの機会がある時に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行っている。夜の外出支援の取り組みなどを報告し、施設の特徴、取り組みを理解して頂けている。熱中症予防等の助言をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で報告をしている。地域包括センターとも空き状況等連絡を取り合っている。市役所へは書類提出等定期的に訪問している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の為玄関の施錠はしているが、その他の身体拘束は行っていない。社内研修にて職員は、身体拘束となる行為を理解し、日常において身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内、社外の研修を通して学ぶ機会があり、情報共有出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内、社外の研修を通して学ぶ機会があり、情報共有出来ている。事務長、管理者が窓口となり支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に管理者が説明を行っている。改定の際は事前に家族会、手紙にて連絡を行い、個別でも疑問にお答えして納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営推進会議、家族会等で意見を聞き反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング等で行われている。キャリアパス要件規程の変更等がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務等実行者確認表などを通して行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修、施設内でリフトの使用方法、利用者様の移乗方法などの講習会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流を考えているが、実施できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供会議の際に行っている。職員間で情報共有できるよう「私の気持ちシート」を活用し、聞き出したことを参考にかかわれるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネが面接にて行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・ケアマネが入所時に自宅に訪問する。同居の親族などにも話を聞いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る方には食器洗いや買い物、掃除、縫い物、メニュー決めなどを一緒に行っていたり、助け合いながらコミュニケーションをとっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者様の様子を報告している。必要なものを用意して頂いたり、馴染みの物(犬のぬいぐるみ、家族写真)などを持ってきて頂いている。イベント時は遠方より、お孫さん、曾孫さんを連れてきてくださっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じ団地の方が面会に来て下さっている。自宅近くの喫茶店、スーパー、施設等へ出掛け、職場の同僚や近所の方と会ってお話をする機会がある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おとなの学校やトランプ・ジェンガゲーム、その他のレクリエーション、買い物・家事の手伝いを通してコミュニケーションがとれるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば努めている。退所後、入所先への面会へ伺ってもよいか等お聞きし縁がすぐに切れないよう努めている。退所後も「みどり便り」を送ってほしいを言う要望にお応えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から希望を聞き取り把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント票や私の気持ちシートなどの書類と普段の会話を通して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録への記入と申し送りをして把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1度のミーティングにて定期的にモニタリング・カンファレンスを行い、利用者様の状況や希望、ケアプランの実施状況を話し合い、介護計画作成に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日報や個別記録を通して、ケアプランの実施状況、夜間の睡眠時間やパットの使用量、トイレの時間、水分摂取の方法等ミーティングにて職員間の情報共有と意見交換を行い介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様との普段の会話から、コンサートや夜の動物園、花火を観に出掛けている。精神科受診(外出)が困難な方がいらっしゃり、精神科医の往診をお願いした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共施設へ出掛け卓球を楽しんで頂ける様支援している。自宅から通っていたショッピングセンターへ外出支援をしている。目的を持って歩いて出掛けられるよう近所のコンビニを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診と、特変時には電話連絡により対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週に2回の訪問があり情報共有に努めている。看護師より処置の方法の確認なども行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアワーカー・看護師との面談、サマリーを通し情報提供している。病院内のカンファレンスにも参加するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と本人の意向を尋ねている。その都度状態の説明をさせて頂き、その時のお気持ち、意向を再度確認している。運営推進会議を通して区長等地域の代表者へ方針の説明をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に1回講習会があり、勉強する機会がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署と合同避難訓練を実施している。地域へは、運営推進会議を通じ地域の代表者をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各階リーダーが中心になって、馴れ合いになっていないか確認している。随時ミーティングで啓発している。居室に入る際は必ずノックをする。「ちゃん」付けをせず「さん」と呼んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話を大切にしている。行きたい場所や、やりたい事を聞き出し、企画を計画の段階からご本人様と一緒に作成し、実行まで関わって頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごしたいときは、居室で過ごして頂いている。1日個々のペースで過ごして頂ける様行事参加の無理強いなどはしていない。天気の良い日など即日に外出予定を組んで喫茶店などへ外出している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日中は洋服、夜はパジャマを着て過ごしている。着る服はご自分で選んで気に入ったものを着て頂いている。2か月に1回訪問美容室で毛染め等おしゃれや身だしなみに気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー決めを一緒にしていただき、買い物や食事準備、片付けを個々の能力に応じて一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別記録へ食事と水分摂取量を記録し把握している。ひとりひとり嚥下機能の状態に合わせた食事形態で提供している。本人の嗜好を調査し、果物やゼリー等を提供し水分不足を補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後出来ない部分は手伝い、口腔ケアをしていただいている。うがい水に飲んでも害がないよう緑茶を用意している。夜間義歯消毒を行い、定期的に訪問歯科の診療があり、専門職より口腔清掃チェック等行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別記録を通して集計をとり、排泄の時間帯を把握し、個々の排泄ペースに合った誘導介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記録し、便秘の方にはその方に合った下剤を使用している。水分摂取が目標摂取量まで摂れるよう個々の嗜好を把握し、ミカンやスポーツドリンク、緑茶、紅茶などを摂取して頂いている。散歩や運動の支援にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1回は入浴できるようしている。入浴希望があれば毎日でも入れる環境を用意している。汗をかいた日など入浴日にこだわらず、声掛けを行い支援している。入浴時間も本人の希望に沿うよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じて居室で休んでいただいている。ご自分で判断できない方は、職員が状態を把握し、臥床介助を行い休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による研修がある。誤薬がないよう薬剤師がセットした薬を、毎回誤薬がないようトリプルチェックを行っている。服薬の変更などがあったときは、業務日報と申し送り確認だけでなく目に付くところにメモ書きを張り出している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞を読む、喫茶店へ出掛ける、ドリフやよしもと新喜劇を観る等個々の楽しみごとを把握し新聞を配布したり喫茶店へ出掛けたりYOU TUBEを観て頂ける様支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力を得られている。地域の方から行事参加の誘いもある。その日の会話から喫茶店へ出掛けたり、ショッピングセンターへ出掛けている。栄の美術館の期間限定の催しや、花火大会、夜の動物園など普段いけない場所へも足を伸ばしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方は、ご家族様にも了承を得て所持している。買い物支援時、ご自分で支払いをしていただいている。小遣い帳をご自分で記録している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	みどり便りを通して行っている。年賀状を手作りし出して頂いている。携帯電話を所持されている方はご自分から定期的に電話をしている。(迷惑電話になっていないかご家族様に確認している。)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1, 2階同じつくりなので、混乱しないように掲示物で雰囲気を変えている。季節感が出るよう壁飾りを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファでご自分の定位置がある方もいる。毎日気の合う方同士が近くに座れるようテーブルのイスやソファの場所はほぼ決まっている。天気の良い日はテラスで談話を楽しみながらお茶が飲めるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていたものやご家族様が持ってきてくれた写真などを飾っている。自宅にいた時のような空間づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	迷わないようにトイレやふろ場などの表示を利用者様の目線に合わせて掲示している。安全に歩行や立ち上がりができるよう、必要な場所に手すりをつけている。		